

Optimal Solution

梅雨入りしたと「見られる」という発表があったのは6月10日(火)だったのですが…梅雨前線はどこへ行ったのでしょうか？暑いのが好き、という人にとってはラッキーなのでしょうが、学校としては、嬉しいよりも不安の方が大きいというのが実情です…。

と言うのも…御承知のとおり、近年の夏の暑さは「危険」と言えるレベルにまで達することがあるからです。そのため、学校の様々な活動に支障を来す恐れがあるのです。例えば、昨日の生徒会役員立会演説会…放送やリモートで実施するという手もないことはなかったのですが、結局は、様々な暑熱対策を施した上で、当初の予定通り体育館に集まり、立候補者の皆さんの顔を直接見たり、声を直接聞いたりする場を設けることにしました。

このような判断というのは、実に困難なものです。最終的な決裁権者である私が弱音を吐いてはいけないのかもしれませんが、実際、難しいものです。

なぜかと言うと、ここは「学校」だからです。学校、特に全日制の学校の最大の役割は、「同じ時代に同じ場所で同じ体験をすることでしか得られない何か」を生徒の皆さんに提供することなのだと私は考えています。

それを念頭に置いたとき、果たしてシンプルに「安全第一」だけで考えてよいのか…？安全が「第一」なのは間違いありません。しかし、「第一」であり「唯一」ではありません。「第二」「第三」…と、検討すべき要素はいくつもあります。それらを総合的に勘案して決断を下す必要があります。…だから難しい…ということです。

因みに、私が本校で教頭を務めていた令和2年は、まさにコロナ禍真っ最中だったのですが、本校は他校に先駆けて10月に修学旅行を実施しました。理数科も、海外は諦めざるを得ませんでした。屋久島など国内で実習を行いました。修学旅行を中止した学校がたくさんある中で、私は本校のこの決断はとても良かったなと思っています。それは、結果として大過なく終わることができたから、ではなく、結果はどうあれ、**リスクと成果**とを天秤にかけて、総合的に検討した上での決断だったからです。リスクを軽視していたわけでもありませんし、逆に、必要以上に臆病になっていたわけでもありませんでした。

今後も学校では様々な行事等が予定されています。それらのうち、リスク回避を優先して、日程や実施方法等を変更する場合もあると思います。一方で、今回の演説会のように様々な対策を施しながら、当初の計画通り実施するものもあるかと思っています。

生徒の皆さん、保護者の方々、お考えはそれぞれあるかと思いますが、職員一同で何がBetterなのかをよく検討しながら…つまり、唯一絶対の「正解」ではなく、「最適解」を求めながら、学校を前へ進めて行きたいと考えております。

※因みに、明日は夏至です。夏至にはなぜか有名な風習がないような気がするので、今一つ忘れられがちですが…日曜日からは少しずつ日が短くなると考えて、この暑さを乗り切りましょう。